

ISSN 0389-4452

私立短期大学図書館協議会

会報

Bulletin of Junior College Library Association

発行者：鈴木英二
 発行所：私立短期大学図書館協議会
 〒215 川崎市麻生区東百合丘3-4-1
 調布学園女子短期大学図書館内
 電話（044-966-9211～3）
 編集者：川井・菅原

1991.3 No.28

特集 もり・きよし先生を偲んで



S61年全国研修会・懇親会で
 乾杯の音頭をとる故もり先生

私たちの敬愛してやまない本会名誉会長・顧問もり・きよし先生が亡くなられた。昨年11月14日のことである。たまたま翌15日は、本会主催の全国研修会の初日に当り、開会に先立って参会者全員が黙禱を捧げ、先生の御冥福を心からお祈りした次第である。今回、追悼号を発行するに当り、大先生であられた先生の御経歴などの一端を御紹介し、先生を偲ぶすがともしたい。

先生は1906年大阪市のお生まれ。市立商業学校を卒業後、図書館用品店間宮商店に就職された。店主の間宮不二雄氏は図書館について確固たる理念の持主であり、館界の優れた指導者でもあった。先生はその薫陶を学べる傍ら、当時新進気鋭の図書館員を結集した青年図書館員連盟の一員として図書館研究に情熱を傾けられた。その成果の一つがND Cの創始であり、'29年その初版が間宮商店から刊行されたことは衆知のとおりである。

'30年間宮商店を退職された先生は、その後取鳥県立、神戸市立の各図書館に司書として勤務されたが、'38年中国大陸に渡られ、主として華中において図書館業務等に従事された。敗戦により帰国、一時市川市立図書館の

お別れのことば

—もり先生の訃に接して—

会長 鈴木英二

開設業務に携われたが、'47年帝国図書館に移られ、以後'72年まで国立国会図書館に勤務された。

この間、日図協の評議員、理事に選任されるほか、分類委員長、整理技術委員長等の要職につかれ、また大学での図書館学、あるいは司書講習等の講師として後進の指導、育成に尽力されるなど、館界の発展に多大の功績を残されたことは多言を要しないところであろう。

国立国会図書館を退職後は、青葉学園短大に教授として迎えられ、体調を崩されるまで図書館学を講じられた。そして私たち短大図書館関係者にとって特筆すべきことは、'77年の本会創立から'83年に至るまで、3期7年間にわたって会長として直接御指導をいただくことができたということである。創立以来14年、本会が全国500有余の私立短期大学図書館の組織として、揺ぎない基盤を固めることができたのは、ひとえに、草創期にあって本会の行くべき道を明確に指し示して下さった先生の御指導の賜ものである。

先生は、御高齢にもかかわらず、体調を崩されるまでは会合の都度必ず出席された。そんな時はあまり発言されず、静かに役員1人1人の発言に耳を傾け、若い人びとの議論を楽しんでおられるかのようであった。

いま、短大の図書館には難問が山積している。この時期に先生がお亡くなりになられたことは痛惜の念に堪えないが、私たちは先生の教えを忘れず、組織をさらに強固なものにし、短大図書館のよりいっそうの発展に寄与したいものと思う。この決意を先生の御霊前に披瀝し、お別れのことばとしたい。 合掌

(千葉経済短期大学)

もり・きよし先生を偲んで

安部 登己

初めてもり先生にお目に掛かったのは、確か昭和40年代の中頃、JLA教育部会の夏期研修会(富士山麓)のことだったように思う。故石塚正成先生のご紹介でした。お二人の先生のご自宅が近所だったせいもあって、帰りは一緒ということになり、私の車に乗っていただいたのが機縁となりました。思えばそれ以来ということになりますので、もり先生晩年の20有余年に、親しくご高誼に与かる幸運に恵まれたということになりましょうか。

もり先生の残された折々のお言葉やお話の中で、私の心に深く刻まれていること二つを今思い起こしています。

一つは「看護婦さん」についての先生の思いです。昭和50年代の半ば過ぎだったでしょうか先生は虎の門病院で白内障の手術を受けることになりました。比較的簡単な手術だったというので、術後間もなくお見舞いに伺った時の話です。

日頃は病院嫌いで通っていた先生でしたが、その病院の看護婦さんのプロ意識に徹した献身的なケア振りにはすっかり感心されたご様子で、どうしたらこんな素晴らしい専門職が生まれるのか、皆がみなナイチンゲールの気持を気持ちとして持ち続けられるのか、図書館界のそれと比べられ、ぜひともこの体験を書き残して置きたいと熱っぽく話されていたことが強く印象に残っています。

また、もり先生とごく親しい数人が、若き日の先生の思い出の地三国峠の麓「法師温泉」に旅したことがありました。途中ふと立ち寄った茶店で見つけた短冊のことを後から聞かされることになりました。

その後、昭和61年に私の大学までお出まし願ってご講話を頂いたのですが、張りのあるあのお声で「伸びる いつもこれだけを考え給え(ハチロー)」と、先の短冊の内容と看護婦さんのことを重ねての話は忘れられません。

(常任理事 聖徳大学短期大学部)

もり・きよし先生を偲んで

坂本 龍三

1990年11月15日、朝日新聞の夕刊によって、もり・きよし先生のご逝去を知った。

深い悲しみを覚えるとともに、しばしば上京しながらご無礼をしていたことが残念でならなかった。

先生には、1977年9月、私立短期大学図書館協議会の

設立にあたって初代会長に選ばれ、以来10年にわたって協議会の発展のためにご尽力頂き、そのご功績ははかり知れないものがある。

約1年半後の1979年4月、おくれはせながら北海道地区協議会を結成し、その年の秋には最初の事業として、「NDC・新訂8版」の公開セミナーの開催を計画し、NDCの生みの親であり、会長でもあるもり先生に講師をお願いし、ご快諾いただくことができた。

セミナーは、道内の館界に大きな反響を呼び、参加者は160名を越す盛況ぶりで、予め用意した椅子が足りなくなり、立ったまま聴く人もかなりいた程であった。

その日われわれは、先生のお話に聴き入っている参加者の熱気と、その反響の大きさに驚き、かつ感激したことでした。そしてまた、お話しを通じて、先生の温かいお人柄を一人でも多くの方にとって頂くことができよかったですとしみじみと感じたことでした。

このセミナーの開催と成功によって、われわれのその後の活動に自信と勇気を与えられたことは確かである。

このように先生の大きな力によって支えられてスタートした北海道地区協議会を今後も地道な活動を続け、進展させて行くのが、われわれ育てていただいた者のつとめではないだろうか。

もり先生、有り難うございました。ご冥福をお祈りいたします。

(元北海道地区理事 北海道武蔵女子短期大学)

「NDC」の基盤を作ったもり・きよし先生

中村 泰正

故もり・きよし先生について、第一に想起されることは日本十進分類法(NDC)である。今から64年前の1927(昭和2)年に「青年図書館員連盟」(LYL)が大坂で結成された。この団体は間宮商店社長の間宮不二雄氏を中心とした京阪神の有為の青年図書館員の研究機関で、標準分類法の制定も研究テーマの一つであった。

間宮氏の指導で、メルビル・デュウイの十進分類法(DDC)の研究をしていたが、間宮氏の委託に応え、もり先生が機関誌「書研究」に「和洋図書共用十進分類表案」の名称で発表、それを1929年に改題出版(間宮商店)したものが『日本十進分類法』である。

分類表として画期的な業績であると評価され、広く館界の支持を得、特に戦後は国立国会図書館が和漢書の分類に採用するに及び、標準分類表として普及した。

昭和49年、もり・きよし先生の「資料分類法概論」(理

想社)が刊行されると第1号で短大の図書館学講座の教科書に使わせて頂き、もり先生の門下生となったが、折々の弟子の質問に対していつも丹念にハガキに独特の小さな文字で説明され、恐縮・肝銘の至りであった。

昭和54年から勤務校の短大図書館が「私立短大図書館協議会」の東北地区理事館となったので、東北六県の短大図書館の研究会に、もり先生を講師として招請し、短大図書館運営の全般について徹底した御指導を頂く機会をと念願していたところ、地区の館長先生・司書の方々が皆、賛成されて昭和58年に実現した。東北地区で六県から集まりやすいのは仙台なので、仙台の会場にもり先生をお迎えした。もり先生は事前にB4版2枚に書かれた資料を送ってこられ、先生の懇切な御指導を受けることが出来た。司書たち一人一人の質問に対しても、もり先生は時間を超越して説明され、いかにも楽しそうであった。

翌59年、仙台でJLAの「全国図書館大会」が開催された折、再びもり先生を「都の都」仙台にお迎えし榴ヶ岡のお気に入りのホテルに泊って頂いた。もり先生は3日間の会期をゆっくりと楽しまれた。ご帰京の日、仙台駅の珈琲店で、「キミ、仙台はコーヒーも旨いネ。1日平均8杯飲んだヨ。」もり先生は無類の珈琲党でもあった。

(元東北地区理事)

森先生の思い出

前川和子

森清先生は、私が図書館員になったとき、もうすでに伝説的で偉大な方でした。

私が新米司書であったときに、森先生という存在は、日本十進分類法(NDC)の創案者であるとか(私の職場は7版を使っていましたので、とても身近な方でした。)先輩の話題の中にとか、研修会や研究会の場で先生のお名前を聞きました。「偉い方なんだなあ」と思ったものでした。

森先生と言えば、NDCなのですが、私が属していません、日本図書館研究会・整理技術研究グループ(以下、整研グループ)と、そして私短協協での思い出がやはりとても大きいものです。整研グループは、主に大阪を中心に研究活動をし、整理技術とあるように分類や目録の研究を行っていますが、ある時、分類の権威である森先生をお招きし、一席設けたことがありました。先生はお酒が入ると、(研究会が終わった後で、ほっとされたこともあって)とてもこやかに、お話が弾みました。特

に興味深かったのは、大阪の間宮商店にお勤めだった頃のお話です。間宮氏は商人だったけれど、ある面で偉い学者で、とても啓発されたこと、そして、森先生はこの時代にNDCを創案されたこと、夜遅くなり(一杯飲まれてでしたか)市電がなくなって、線路の上を歩いて帰られたとか、など、とても気さくで、そのお話ぶりが楽しくて、親しみを感じてしまいました。私にも優しく声をかけてくださったので、若かった私は有頂天で、すっかりお知合いになったつもりになりました。それ以後お会いすると、先生にご挨拶するのが楽しみになりました。

そして、1977年秋、私立短期大学図書館の初めての組織である私短協が創立されましたが、まだ小さく弱い組織で、役員意欲だけは燃えているという、そんな組織に日本図書館界の大きな存在であった(その前に私は伝説的な人物と感じていましたが)先生が来てくださったことは、どんなにか私達の誇りでありました。

今、私短協も先生のご指導・ご努力のもとに、しっかりした組織に育ちました。さらに、強く、加盟館の支えとなる組織に育つことを先生も望んでいらっしゃると思います。

普通の偉い研究者というものは、素晴らしい研究業績で後世に知られるものですが、森先生の場合、それ以外に自らの理論の実践と後進の育成までもされました。今さらながら、すごい方だなあ、というのが心からの思いです。

そして今、私はなんてラッキーだろうと思わずにはいられません。先生の暖かく気取らないお人柄に、大阪在住にも関わらず、何度か触れることができたこと。そして、偉大な仕事を成し遂げた伝説的な人物が、一人の素敵な方だと思えることができたということが。

(元近畿地区理事 大谷女子大学図書館)

——先生との出会いを感謝して——

村上博子

もり先生との出会いは、私立短期大学図書館協議会設立の時に、私が発起委員として九州地区から参加させていただいた時でした。

草創期の困難な時期に、会長のもり先生を中心に、在京役員、地区の理事が一丸となつてがんばった時代を懐かしく思い出します。

総会や理事会でお会いする度に、図書館界に対する鋭い洞察と後輩に対する慈愛溢れる御助言に励まされたことでした。

また私が参加している、北九州司書の会（館種を超えた司書の有志の研究会）が「日本十進分類法新訂7版—8版比較表」を作成した折には、日本図書館協会分類委員会元編者として、懇切丁寧な御指導と御助言をいただきました。

先生が晩年、御病気で手が不自由になられた時に皆さんが、ワープロをすすめられました。その時先生は

「リハビリのためにも、できるだけ手紙はペンで書きます。悪筆になりますがおゆるし下さい」と云われました。最後まで御自身に厳しく、他人に優しい方でした。

日本の図書館界に残された先生の足跡の大きさを覚えると共に、私個人としても先生の御人格に触れ、大きな遺産を残していただいたことを心より感謝しております。

（元九州地区理事 西南女学院短期大学図書館）

◇◇平成2年度全国研修会開催◇◇

参考業務と書誌—歴史的事項の捉え方

日本文学（古典を中心に）

をテーマに講義と演習

日時 平成2年11月15日（木）～16日（金）

会場 目白カルチャービル（東京 目白）

テーマ 参考業務と書誌

講師 堀込 静香氏（鶴見大学講師）
高梨 章氏（関東学院大学図書館）
林 利久氏（国学院大学図書館）

参加 86名

主催 私立短期大学図書館協議会

第1日目鈴木会長は開会の挨拶で、高等学校まで図書館利用の指導を受けていないほぼ白紙の学生を対象に、図書館の資料をどう使ったらよいか指導することが皆様に与えられた課題であるから、この研究が少々きつという感想を持たれることもあるかと思うが主催者の熱意のあらわれと受け止めて身のある内容にして欲しいと述べた。2日間の日程のオリエンテーションの後講義にはいった。講義内容は堀込氏の「書誌を使って書誌を知る」高梨氏の「歴史的事項の捉え方」、林氏の「日本文学—古典文学を中心に」で、要旨は下記のとおり。なお、各講義の詳しい内容は「短期大学図書館研究第11号」に掲載される。2日目、参加者は六つのグループに分かれ、与えられた演習問題について、あらかじめ会場に用意された各種の書誌を使って実践的な研修を行った。最後に各グループから問題の解答の発表があり、評価と指導を受けた。

また、懇親会は同じ目白カルチャーセンターのレスト

ランで5時30分より開かれ、講師の先生方を中心にいつまでも歓談が続いた。

なお、会の冒頭で会長より昨日初代本協議会会長であり、館界に大きな業績を残されたもりきよし先生が亡くなられたとの報告があり、一同黙禱を捧げてご冥福を祈った。

◇書誌を使って書誌を知る—私の場合 堀込静香氏

1. はじめに：書誌を使うということは習うより慣れろだが、それだけではどうか、必ずしも正統的な使い方でないことも多く楽しむことも必要である。
2. 私と書誌の付き合い：レファレンスの現場から出発して質問を受けて終わらせず自分の身近な興味のある書誌と付き合いが始まった。
3. 書誌の使い方あれこれ：自分流の書誌の使い方、効率の良い使い方が必要だが苦しまぎれに手当たり次第あたる時もある。
4. 書誌のない分野：大衆娯楽誌、スポーツ紙、少年少女雑誌、婦人雑誌、映画演劇雑誌、教科書等保存されていないことが多い。実物がない、実物があっても書誌がない。社内報、PR誌も探せない。
5. 書誌の代わりになる資料：新聞広告、週刊誌の広告、軽雑誌も有効だった。ただし昭和10年代～40年代は実物にあたらないと危険。
6. 書誌データベースの検索：J I C S Tのデータベー

スJOICE（科学技術文献速報のオンライン検索システム）やJ-BISCでやってみる。機械で探すといっても、結局人が関わっているので多少信じるのではなく最終的には自分で蔵書目録や全国書誌をみる。

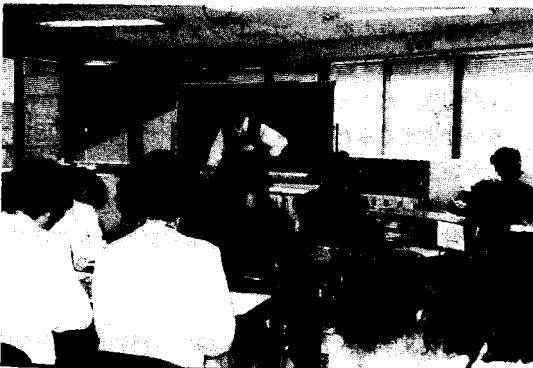
7. 書誌から学んだこと：書誌とは選択性と網羅性を含んでいる。数種類の書誌を使わないと漏れが出る。書誌記述は目的にあわせて自由である。注記は最も作成者の特徴が出る。索引は作成者の力量が発揮される。

以上、深田久弥その他の書誌づくりの過程の中から得たことからまとめた。仕事を離れ、学術的でないもの、ポピュラーなもので書誌を作ってみることを勧めたい。

◇歴史的事項の捉え方

高梨 章氏

- はじめに：どんなところから歴史的事項の質問が発生するか？①歴史の授業 ②ジャンル別（経済史、科学史等）③史がついていなくても過去のことを調べる。
- 『十三夜』と『少女病』：③の具体例として文学に注釈をつける試み→些細なこと→組み立て方→社会を生き生きと再現→レファレンスには大事
- 『東海道中膝栗毛』から：
- ちゃぶ台の話：3,4に共通的にいえるのは、利用者（学生）本人にも質問の位置づけができていない場合、それだけのものとして終わることもできるがなぜ些細な質問をするのかという文脈を面白がる、驚く、考えていくということでないレファレンスも楽しめない。
- 頭のよさには2通り：①蓄積、又は記憶力②判断力、推理力がレファレンスに必要
- 探索事例3種：まとめとして①質問者と一緒にきちんとした質問を作った後質問をバラバラにする。②言葉の字面に引きずられず概念として探す。③同位、上



熱心に講義に聞きいる参加者

位、下位の言葉を決め、どこから手をつけるか決める。

- ④自館の蔵書構成を加味する。⑤学生の場合授業、担当教員のことも考慮する。⑥組合わせや分野の階層を広げる。⑦自分のマニュアルを作る。
7. 選書の話：探索結果のアフターケア、手直しとしての選書
8. 利用者にもまれる：利用者積極的に接触して利用者から引き出す。レファレンスとは資料をめぐる利用者で共生することである。
9. まとめ

◇日本文学—古典を中心に—

林 利久氏

- はじめに：利用者との応対—利用者の言葉に染まっていく。染まっていて見えるものもある。自分の知っている分野に持ってきてしまうのはよくない。相手の質問をいかに引き出して来るか。利用者への質問の仕方が難しい。利用者は上位概念からの発問が多いので、次の聞きだし方で全然ちがってくる。解答の出し方—解答を出してしまえば終わりと考えがちである。しかし、山登りと同じで地図をみて（構図を作って）異なる経路からも試してみる。解答のために—自館の本を知る。書庫の中を歩く。新着図書をみておく。参考図書については目次、索引、出版理由又は経緯をみる。他とどうちがうか比較検討した内容を知っていなければ利用者に複数案内できない。自分で使ったらどうか？自分で作るとしたらどうか？新しい参考図書が入ったら自分で「日本の参考図書」に該当するものをつくる。
2. 質問の傾向：質問者の範囲が幅広く、分野も文学なら唯文学だけではなく時代背景を加味する必要があり、社会史の観点からも近づく。
3. 参考業務と書誌：雑誌の学会時報、学会教育界展望は最新の情報であり、特集は目録又は一覧を作っておく。別冊には文献目録が載っていたりする。『古事類苑』のように学生が使えないものは係が熟知しているべきである。背文字が外国語であると利用が少ない場合和名を補足するのも一方法。書誌の使い方は自分流に数多く。本を探すということはNDCという地図の中を歩き回ることである。①眼を通す ②何ということもないことの蓄積 ③後で探すときの役に立つ ④書架の間を歩く ⑤異分類で関係のある図書の確認
4. 解題：事例3題の解題

平成2年度全国研修会「参考業務と書誌」(第6回)

参加者アンケート結果 (参加72名中66名解答)

1. 参加者の図書館での経験年数

5年未満	6～9年	10～19年	20年以上	未記入
28人	19人	13人	4人	2人

2. 参加費 公費：65人 未記入：1人

3. 参加回数

	初参加	2～3回	4～5回	毎回	未記入
参加者本人	45人	19人	1人	0人	1人
所属図書館	11館	28館	15館	7館	5館

4. 研修会全体について

- ・大変よい研修会だった 14
- ・和気あいあいとした雰囲気よかった 7
- ・未知の資料を知ることができた 6
- ・講師がユニークで、熱心に聞くことができた 5
- ・細かい配慮がなされていてよかった 5
- ・他の地区の人と交流ができた 4
- ・ゆったりしたスケジュールで余裕があった 2
- ・講義の1時間40分は長すぎる 2
- ・前が見づらかった 1
- ・時間がルーズである 1

5. テーマについて

- ・設置学科に関連がある分野で参考になった、興味のある分野でとても参考になった 24
- ・よいテーマであった 11
- ・特に「歴史的事項について」が参考になった 4
- ・毎回テーマが違うのがよい 3
- ・他の分野も取り上げてほしい 2
- ・同系列でなく全く違うテーマを二つにした方がよかったと思う 1
- ・「歴史的事項について」は継続してほしい 1

6. 講義・講師について

- ・分かりやすい講義、メリハリのあるユーモアたっぷりの講義だった 32
- ・実務経験を踏まえた講義で、具体的な知識を沢山得ることができた 18
- ・あらゆる方向から物事を見る目が大切であることを教えられた 2
- ・レファレンスを行う側と受ける側とのコミュニケーションの大切さを述べられた高梨先生の講義がよかった 1

- ・堀込先生の書誌に懸ける情熱に感銘を受けた 1
- ・豊かな経験を踏まえた林先生の講義がよかった 1

7. 演習について

- ・よく考えられた演習問題であった 16
- ・参考図書の種類が多く十分な演習ができた 4
- ・時間も丁度よく、じっくり演習ができた 3
- ・解答に至るには種々な道筋があることを、同じグループの人から教わることができた 2
- ・演習結果の発表と評価がとても勉強になった 1
- ・使ったことのない資料を実際に手にすることができた 1
- ・演習時間が短い、時間の割りに問題数が多い 15
- ・参考図書の冊数が少ないために他の人が使用していることが多く、問題解決が中途半端になってしまうことが多かった 8
- ・机が狭くて参考図書の利用やノート記載が困難だった 3
- ・ブッスエンドを用意してほしい 3
- ・実際に図書館でそこにある書誌を使って演習したかった 2
- ・参加者の人数をもっと少なくしてほしい ・グループ毎にテーブルについて協議しながら演習を進めた方がよい ・一つのテーブルにつく人数を少なくしてほしい ・グループに予め問題を割り当てる必要はない ・グループ割り当ての問題だけ解くようにして、演習時間を短くしてほしい ・答えが見つからない問題をもっと多くしてほしい ・書誌解題的なものや蔵書目録等も揃えてほしかった (以上各1)

8. その他

- ・図書館の真の姿、レファレンス・サービスについて再確認することができた 2
- ・今回学んだことや演習問題を自館で別の角度からもう一度考えてみたい ・文献探索やガイダンスに役立てたい ・件名やキーワードについて深く考えてみたい ・演習結果の発表は必要ない ・実施計画の発表をもっと早くしてほしい (5月中、遅くても7月迄に)

9. 今後の研修会への希望

- 1) テーマ
英語英文学関係(8) 情報科学(3) 経済(2) 秘書学(2) 近代日本文学(2) 以下各1：宗教学、アジア史、中国史、社会科学特に世界情勢について、法学、社会

学, 日本文化, 教育, 自然科学, 保健衛生, 美術, 音楽, 新聞記事について, 今年の継続

2) 開催時期

今回と同じ11月中旬(8) 春(1) 春と秋(3) 初夏(2)
夏休み(2) 秋(2) 9月(2) 10月(1) 11~12月(2)

3) 講師

・今回と同じように実務経験豊かな人を望む 4

4) 開催地

・東京(含む「毎回開催地が違おうと予算が獲得しにくい」2): 12
・関西(含む「大阪」): 5

・東京と大阪: 3

・東京か大阪: 1

・全国各地で: 1

・毎回東京で行われると地方の人が大変だと思う: 1
以上が集計結果である。今回の参加者は、何故か関東以西の人だけであった。例年に比べてベテランの方々の参加も多く、又、複数回参加している図書館が相当あることから、この研究会が定着しつつあることがうかがえる。実務経験豊かな講師の講義と演習は、十分な成果を上げたようである。いろいろな問題点も指摘していただいたので、次回以降の参考にしたい。(研修担当 安達勉)

~~~~~ 研 修 会 に 参 加 し て ~~~~~

東筑紫短大 森田清恵

利用者の資料探しの援助(参考業務)ができる司書と、必要な書誌が揃っている図書館をめざすには、私たち司書一人一人の能力のレベルアップが求められます。

このたびの研修会で、書誌はどのようにして作られるのか、どう使うのかを知り、良い勉強ができました。この2日間は充実し、なごやかで親しみのある研修会でした。講師の方々、準備して下さった役員の方々に感謝します。提供された何百冊もの書誌は10カ所の図書館からとのこと、利用者にご不自由をおかけしました。

さっそく、地元の勉強会『北九州司書の会』11月例会で今回の報告をしました。そして西南女学院短大で書誌を使つての実習をし、大変に喜ばれました。

次回は皆さん、ぜひ参加しましょう!

恵泉女学園短大 中西亜紀

三人の先生方のお話はそれぞれに興味深く聞かせていただきました。お話から共通して感じられたのは、「知る」或いは「探索する」ことへの並なみならぬ努力と情熱です。自らをふり返ってみると、一つの質問に対してある程度の回答が出せればそれで満足し、それ以上追求してみることをしていません。今までの自分を反省しつつ、今後はいろいろなアプローチを試したいと思います。

また、実習では、今まで思ってもみなかった資料の使い方を発見できるなど、とても勉強になりました。講義だけでなく、その場で自分の目で確かめられるのは大変なためになりました。

最後に、これだけの準備をして下さったスタッフの皆様にお礼を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。できれば継続して参加したいと思います。

神戸山手女子短大 松家栄一

この研修会で私の参加は3回ということになりました。前2回は私の図書館員としての経験が浅かったせいもあって、書誌の知識を吸収するのが精一杯でした。それが今回は講義が書誌解題をメインとせず、参考業務に携わる図書館員のあり方や考え方といった話を中心に進められたこともあり、どうしても考え方が独りよがりになりがちな日頃の自分の仕事ぶりを振り返りながら聞かせていただくことが出来ました。実際実習では、余りに一面的な考え方しか出来ずにいて(ふだん扱わない分野の問題は特にそうでした)、会場で多くの方から様々な考え方、見方があることを教わりました。今は、ふだんから少しずつ勉強を積み重ねて、こういった場で独りよがりな部分を抉り出してもらい、また帰って勉強する、といったことのくりかえしで少しずつ成長していくものなんだという思いを強くしています。

佐賀女子短大 徳永さゆり

司書として2年目を迎えた私にとって、今回の研修は正に大きな「収穫」であった。

第1日目の講義では「レファレンスの第一歩は利用者との対話で始まり、対話の中から答えを見つけていく」といったような「手引き」や「心構え」を教えていただき2日目の演習も緊張の中で、問題と取り組んだ。今回の主題(①歴史的事項の捉え方②日本文学)も私自身、関心がある事柄で、一層興味をそそったように思う。

更に、他の大学の方々との交流も良い経験であった。日頃の悩みや疑問をお互いに語り合っているうちに、共通の目的を感じることができた。また、「図書館」を新しい角度から見る良い機会でもあった。

研修会で学んだ1つ1つを宝物として、今後の業務に役立てていきたい。

地区活動報告—27号以後—

<北海道地区>

<1990年度総会>

全道各地から10館14名が出席して6月5日(火)
午後2時から約2時間にわたり、下記の通り開催された。

日 時：1990年6月5日

会 場：北星学園女子短期大学

議 事

1. 1989年度活動報告(承認)
2. 1989年度決算報告、監査報告(承認)
3. 1990年度活動方針案(承認)
4. 1990年度予算案(承認)
5. 報告

<1990年度研修会>

北星学園女子短期大学を会場に、11月22日(木)
19館37名が参加して開催された。このうち、加盟館以外
から6館の参加が得られた。

日 時：1990年11月22日

場 所：北星学園女子短期大学

テーマ：「図書館の発展と図書館員」

講 演：「世界の図書館事情」

講師 今まど子氏

(中央大学教授 図書館学担当)

研 修：「全国規模の研修会に参加して」

全国図書館大会

(小樽女子短期大学 細川仁子司書)

著作権講習会

(静修短期大学 矢野拓志司書)

図書館利用指導ワークショップ

(北星学園女子短期大学 永島久永司書)

「参加館実状交換」

<新加盟館>

光塩学園女子短期大学図書館

札幌市南区真駒内上町3丁目

<東北地区>

1. 平成2年度 東北地区協議会総会・研修会

日時：1990年9月8日(土) 13:30~16:30

会場：尚絅女学院短期大学図書館

出席：14校21名

<総会> 13:50~14:30

平成元年より名取市ゆりが丘に総合移転をした尚絅短
大の新校舎は、後期開講前の静かなたたずまいで21名の
出席者を迎えた。稲瀬正夫学長の歓迎の挨拶に引き続き、
山形潔子館長(尚絅短大・東北地区理事)の司会で総会
の議事に入った。

議事

- (1) 平成元年度 決算報告及び会計監査報告
- (2) 平成2年度 理事会報告(5月23日開催)
- (3) 平成2年度予算及び事業計画について
- (4) 「短期大学図書館研究」原稿依頼の件について
- (5) 来年度総会開催日程について

14:30より休憩の後、尚絅女学院短期大学図書館紹介
のビデオを鑑賞した後、係員の誘導で、新校舎を見学し
た後、会場を図書館に移動した。

研修会は、「尚絅短大図書館の現状—日常業務を中心
に—」と題して、同短大図書館の森谷陽子司書が豊富な
資料を使用して現状分析を行い、活発な質疑のうちに、
16:30分、盛会裡に終了した。

2. 私短協に新規加盟

平成2年10月16日付を以て、下記の新規加盟があった。

記

図書館名：岩手女子看護短期大学図書館

所在地：〒020-01

岩手県岩手郡滝沢村大釜字千ヶ窪14番地1

Tel 0196(87)3864(直通)(内線17)

FAX 0196(87)3894(直通)(代表)

代表者：学科長 矢川寛一

代理人：事務職員 菊池久美子

<関東甲信越地区>

平成2年9月28日(金) 14:00~

第三回幹事会(目白学園総合図書館)

議題:①合宿研修会について ②名簿発行の件
③雑誌リスト作成について

同年10月15日(月)~16日(火)

合宿研修会(茨城県大洗町「ホテルかもめ荘」にて)

テーマ:「21世紀の図書館を語る一特に視聴覚資料に
関して」

1. 講義:船井功一氏(丸善ニューメディア部)
2. パネルディスカッション
 - ①将来展望の面から(鎌倉敬文氏 淑徳短大)
 - ②サービスの展開から(若月博雄氏 東横短大)
 - ③管理・保存の側面から(馬場直子氏 立教女学院短大)
3. 自由討議
4. 教養研修(史跡探訪) 水戸の偕楽園→三戸近代美術館→水戸藩学校「旧弘道館」を見学。

参加者42人(内宿泊者35人)

来年のテーマと場所決定される

テーマ:「21世紀を語るパート2ーネットワーク」

場 所:群馬県伊香保温泉にて開催予定

会勢:99館

<東海・北陸地区>

1. 平成2年度第3回幹事会

日時:平成2年9月13日(木)AM.11:00~PM 3:00

場所:名古屋短期大学付属図書館

出席者:8校13名

議題:(1)平成2年度総大会の総括
(2)平成2年度研修会実施要項について
(3)研修・会報委員会
(4)その他

2. 平成2年度研修会

日時:平成2年10月19日(木)AM,10:00~PM. 3:40

場所:名古屋短期大学付属図書館

出席者:29校41名

<研修会>

会長(名古屋短期大学図書館長)石田弘志先生,
学校法人桜花学園理事長 大谷和雄先生,名古屋
短期大学学長 石崎寛先生の開会挨拶に続き,新
加盟館,豊田短期大学を紹介した後,研修会に入
る。

研修テーマ「図書館運営の諸問題」について,事
前にアンケート調査を実施して得られた資料をも

とに,北陸学院短期大学 尾田真知子さんの司
会により,図書館のかかえる諸問題について,そ
れぞれの立場から討議検討した。

<講演会>

「情報論」を演題として,愛知学泉大学・愛知学
泉女子短期大学教授 高田公理先生が広範な人
生経験をふまえて,現在求められている情報に関
してユーモラスに講演された。

会長の閉会挨拶で,午後3時30分すべての日程を
終了した。

3. 平成2年度第4回幹事会

日時:平成2年12月7日(金)AM11:00~PM:3:00

場所:名古屋短期大学付属図書館

出席者:9校14名

議題:(1)平成2年度研修会の総括
(2)会報No.22号について
(3)私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会会
則について
(4)その他(平成3年総大会について等)

4. 会報No.22号編集発行について

平成3年3月中旬発行予定

<近畿地区>

<新加盟館紹介>

藍野学院短期大学部図書館

滋賀文化短期大学図書館

近畿地区加盟館69館(94館中,73%)

1991年1月20日現在

<第25回研修会>

日 時:1990年10月19日(金)

10:00~16:00

場 所:国立民族学博物館

参加者:加盟館 31館 40名

未加盟館 2館 2名

合 計 33館 42名

<その他>

1990年9月

「近畿地区私立短期大学雑誌目録」発行準備のための
予備調査をおこなった。

<幹事会>

1990年度

第2回 1990年6月29日 14:00~16:00

第3回 1990年9月7日 9:30~13:00

第4回 1990年10月11日 14:00~16:00

第5回 1990年12月7日 13:30~16:30

＜中国・四国地区＞

1. 新規加盟館

広島女子商短期大学附属図書館

731-43 広島県安芸郡坂町 10680

(平成2年度、加盟館合計29館)

2. 平成3年度総会・研修会(第6回)開催準備中

＜九州地区＞

1. 役員館決定(平成2.3年度担当) (90.7.5)

○会長館……東筑紫短期大学

○幹事館……近畿大学九州短期大学(大分・九州ブ

ック=機関誌「ニューズレター」編集担当)

筑紫女学園短期大学(福岡ブロック)

佐賀女子短期大学(佐賀・長崎ブロック)

九州女学院短期大学(熊本ブロック)
宮崎女子短期大学(鹿児島・宮崎・沖縄ブ
ロック)

○研修会当番館……鹿児島純心女子短期大学

2. 機関誌「ニューズレター」No.12発行・配布(近畿大
学九州短期大学担当) (12.7)

3. 次回総会および研修会開催要領決定 (12.10)

日時 平成3年4月25日(木)13:30~18:00

場所 南国グランドホテル(鹿児島県鹿屋市)

このことにつき会長館・当番館打合せ後案内状配布

(91.1.16)

4. その他

短期大学図書館全国研修会(11月15・16日於東京)
に九州地区より7館9名参加、会費徴収と本部送金、
「会報」No.26, 27「短期大学図書館研究」第10号等
配布、同誌、第11号原稿依頼、「言語学・英語学関
係基本文献目録」頒布。

◆◆ 会員校の声 第12回 ◆◆

昨年11月の全国研修会で心に残るお話を耳にしました。そこでさっそく当事者の小島さんをお願いして、
会員校の声として届けていただきました。

「資料との出会い、人との出会い」

林利久先生との交流記

名古屋自由学院短大 小島あい子

研修会第一日目の夜、講師の先生方を囲んで和やかな懇親会が催されました。私は楽しいおしゃべりに花が咲くそのなかに加わりながらも、また別の迷いとためらいの気持ちをもっておりました。「ちょっと、小島さん。林先生がさっきからこちらをご覧になっているけれど、あなたは先生をご存知なの。」突然となりていた方から言われて、それを見透かされたように一瞬たじろいでしま

った私なのです。実は、会の始まった頃から、テーブルをはさんで真向かいにおられた、講師の林先生にごあいさつしたのかどうかと、迷いつづけていたのです。そのうちにふと目が合ってしまう、どちらかともなく目礼したのですが、それが仲間の目に止まったのでした。林先生を存じあげているといいましても、本当の意味でこのときが始めての出会いでした。

あれは、もう10年も前に遡るでしょうか。学生からの日本文学関係の質問が、自館の資料では手に負えなくなったことがありました。ふと、東京の國學院大学の図書館に電話で問い合わせしてみようかと思いつきました。そこはその方面で定評があり、それ以前に幾度か文献複写をお願いしたことがありました。ただ、急ぎのこととはいえ、突然の電話での問い合わせには躊躇と不安がありました。でもその危惧は無用でした。電話口に出られた担当の方は、とても親切にあれこれと教えて下さったのです。その時の担当の方が、この研修会の講師で来られた林先生でした。このように、10年も前に、資料捜しを



楽しそうに歓談する林先生と小島さん

—事務局報告—

通しての「声」だけの出会いがあったのでした。

それ以後ご好意に甘えて、幾度となくお世話になってまいりました。「こんなつまらないことをお聞きするのは……。」とダイヤルを回す手が止まりかけるのですがこちらにそんな気づまりをかんじさせぬよう、ていねいに教えて下さるのが常です。

今回の研修会にはからずも講師でお越しになるということで、どんな方かと楽しみにして参加致しました。と同時にこのような出会いだけに、私にはご迷惑をおかけしているという気後れもありました。それが初めに申しましたためらいになったのでした。でも、おもいきってご挨拶を申しあげると、先生も「お会いできるのを楽しみにしていたのですよ。」とおっしゃって下さいました。本当の出会いも、私の危惧に終わりました。お伺いすると、「名古屋」にはご親戚がおられ、身近な地とのこと。私の勤務する「名古屋自由学院」の「名古屋」が、先生に私を印象づけてくれたのかもしれない。

ともあれ、これでまたご迷惑をかえりみず、以前にも増していろいろとお教えを頂けそうです。

原稿募集 —「短期大学図書館研究」第12号—

「短期大学図書館研究」第12号の原稿を募集しています。会員の皆様の積極的な御投稿をお待ちしています。

図書館に関する研究論文、日常業務に関する調査報告書誌、文献目録、索引、その他短期大学図書館についての情報・ニュース等自由なテーマでお書きください。

原稿枚数：指定原稿用紙（22字×15字）30枚前後

原稿締切：平成4年1月末日

投稿宛先：〒170 東京都豊島区駒込3-24-3

女子栄養短期大学図書館 小川 禮子

電話 03(3576)2130 (直通)

なお、詳しい原稿募集要項、執筆要項は、同誌第11号の巻末をご参照ください。

前号(27号)訂正

27号の記事のうち次の3ヶ所が間違っておりました。各短大にお詫びして訂正致します。

○P6正：近畿大学豊岡女子短期大学 誤：←
→近畿大学豊岡短期大学

○P8正：大垣女子短期大学 東・北 誤：東北
正：中部大学女子短大付属 東・北 誤：東北

○会勢

北海道	17	東海・北陸	42
東北	15	近畿	69
関東・甲信越	99	中・四国	30
		九州	31

合計 303

○新規加盟館

①岩手女子看護短期大学図書館

〒020-01 岩手郡滝沢村大釜字千ヶ窪14-1

TEL 0196-87-3864 連絡担当者：菊池久美子

②佐野女子短期大学図書館

〒327 佐野市高萩町973

TEL 0283-21-1200 連絡担当者：青柳智子

③東京家政学院筑波短期大学附属図書館

〒305 つくば市吾妻3-1

TEL 0298-58-4811 連絡担当者：島崎栄次

④埼玉女子短期大学図書館

〒350-13 狭山市上広瀬2011

TEL 0429-53-1515 連絡担当者：湊 伸子

⑤江戸川女子短期大学図書館

〒270-01 流山市駒木字一番割474

TEL 0471-52-0661 連絡担当者：飯島由利子

⑥豊田短期大学図書館

〒471 豊田市太平町七曲12-1

TEL 0565-35-3131 連絡担当者：荒井良一

⑦滋賀文化短期大学図書館

〒527 八日市市布施町29

TEL 0748-22-3388 連絡担当者：川井嘉典

⑧藍野学院短期大学図書館

〒567 茨木市東太田4-5-4

TEL 0726-27-1711 連絡担当者：黒澤節子

⑨広島女子商短期大学附属図書館

〒731-43 広島県安芸郡坂町10680

TEL 082-884-1212 連絡担当者：正田智子

<本部役員会>

平成2年度第3回

日時：10月17日(水)14:00~17:00

会場：市川房枝記念会・婦選会館

議題

①平成2年度短期大学図書館全国研修会の件(継続)

②次期運営態勢の件

③その他

平成2年度第4回

日時：12月17日（月）14：00～17：00

会場：第二富士ビル・会議室

議題

- ①平成2年度短期大学図書館全国研修会の反省
- ②次期運営態勢の件（継続）
- ③次年度活動計画、予算の件
- ④『短期大学図書館研究』11号の件
- ⑤『会報』28号の件

平成2年度第5回

日時：3月4日（月）14：00～17：00

会場：全電通ホール

議題

- ①次期運営態勢の件
- ②次年度活動計画・予算の件
- ③『短期大学図書館研究』11号の件
- ④『会報』28号の件
- ⑤その他

☆会報にご投稿を☆

会報は加盟館に最新の情報をお届けするとともに、会員間の交流の場でもあります。しばらく中断してしまいました「短大図書館めぐり」、再開してますます定着させたい「会員校の声」に原稿をお寄せ下さい。自薦、他薦を問わず、新館を建てたからというのではなく、特にユニークな図書館でなくても、あなたやあなたの身近かな図書館のことが知りたいと思います。また、いろいろな問題、話題、体験、試みを「声」にしてみたいかがでしよう。是非、お待ちしております。

◀編集後記▶

今回の特集は、残念ながらもり先生の追悼号になってしまいました。追悼号に対して多数の先生方をお願いしたところでしたが、紙面の関係で今回は6名の先生方に、極めて多忙のところお引き受けいただきましてありがとうございました。鈴木会長からはもり先生の経歴から業績活動までくわしく書いていただき、あらためて先生の偉大さを発見し、またよき指導者を失ったことは残念でなりません。また他の先生はそれぞれ当協議会での思い出やNDCとの係わりなどなつかしくもり先生のお人柄が感じられます。

私事ながら、もり先生のお名前は、図書館学を勉強していたころから存じておりました。とくに図書館学を担当するようになってから、もり先生は、日本の整理技術では偉大な図書館学者であることがわかりました。

言うに及ばず、NDCは1928年「和漢洋共用十進分類表案として」研究第IV号に発表し翌1929年そのタイトル

「短期大学図書館研究 第11号」内容紹介

特定主題の雑誌記事収集とその文献調査方法

伊吹 啓（杉野女子大学短期大学部図書館）

東北地方における大学・短大の図書館員養成の現状

菅原 春雄（文教大学短期大学部）

短大の「冬の時代」と司書の役割

和田 廣（東洋英和女学院短期大学）

利用指導の実践—短大改革とのかかわりの中で

岡崎 黎子（暁学園短期大学図書館）

リプロスIIによる発注から整理までの一貫システム

井上 宏二（平安女学院短期大学図書館）

短大図書館の総合データベース構築とネットワークにむけて

小松 泰信（羽衣学園短期大学図書館）

インキュナブラの歴史と文献—Ludwing Hainまで

上沢田 浩（聖学院大学総合図書館）

「1954年自由宣言」における知る自由の歴史的意義について

中村 克明（文教大学湘南図書館）

—第8回全国短期大学図書館研修会講義内容—

書誌を使って書誌を知る—書誌による文献調査と書誌の作成

堀込 静香（鶴見大学）

日本文学における主要雑誌の解題と利用法—古典文学を中心に

林 利久（國學院大学図書館）

歴史的事項の捉え方

高梨 章（関東学院大学図書館）

を改題し「日本十進分類表」とした。構成はDeweyの十進記号法に倣い、配列はCutterの展開分類表に拠っている。Deweyは22才でDCを発表し、もり先生も同じく22才で原案を発表しているのは偶然でしょうか。

今NDCが我が国の標準分類表として普及しておりますが、その原案「研究第IV号」に「和漢洋共用十進分類表」が発表されており、最近私はなつかしくそれを見まして感動いたしました。皆さんも是非再読されることをお進めします。もう一つ、もり先生の名著「資料分類法概論」のあと同演習を引き受けたことも光栄に思っております。

これからの短大、またこれからの当協議会はもり先生から教示された数々の課題に対して私どもは一步一步大事に積み重ねて行きたいと思っております。

生前は種々ご指導いただきありがとうございました。

<すがわら>